

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 9月28日

【評価実施概要】

事業所番号	1070500978
法人名	ケアサプライシステムズ 株式会社
事業所名	グループホーム かえで
所在地	太田市龍舞町5655 (電話) 0276-30-2655

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年9月8日

【情報提供票より】(平成20年 8月 26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 1月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 4人, 非常勤 4人	常勤換算6.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費 500円(日額)	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	60 円

(4) 利用者の概要(8月 26日現在)

利用者人数	8名	男性	3名	女性	5名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	79歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田沼内科医院・しのぎき歯科クリニック・訪問看護ステーションクララ・ト
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地に位置するグループホームであり、近隣の人々と挨拶や言葉を交わす機会に恵まれた環境である。また、入居者の居室や共用空間(食堂、居間、台所、廊下等)は広々とし開放的である。職員の入居者に対する態度や言葉遣いは丁寧であり、かつ親しみが感じられる。食事は、職員と入居者全員で食卓を囲み、入居者の「頂きます」の言葉かけで始まり、食事の中の会話は弾み楽しい食卓である。また、職員は入居者一人ひとりの食べるペースを尊重し、全員が食べ終わってから、入居者の「ご馳走さま」の感謝の言葉で食事は終了している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の課題は、運営推進会議や職員会議で検討している。玄関の施錠について、鍵をかけない状況で入居者の様子や家族の反応等を伺っているところであり、今後に期待したい。入浴は、午後の決められた時間内であれば毎日入ることができるよう支援している。自己評価は、職員全体で取り組むことに改善している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員にコピーした評価表を前もって配り、各自で記入している。それを持ち寄り、職員会議で内容の見直しをし、ホーム長がまとめている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>前回の課題(玄関の施錠、入浴体制等)について、管理者と職員以外に、家族、民生委員、区長、市担当者で討議されている。また、自己評価・外評価の結果は、ホームに掲示するとともに、全家族に渡している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居者の日ごころの様子は、定期的に電話や家族訪問時に報告をするとともに、意見や苦情等を聞いている。また、意見箱の設置や外部の苦情受付窓口の連絡先を掲示している。敬老会や納涼祭等の行事や運営推進会議への参加を呼びかけ、家族からの要望等を直接聞くことに努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の夏祭りや道路清掃に参加している。また、散歩時に近隣の方と気軽に会話できる関係であり、地域の人々との交流を大切にしている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成18年に理念の見直しをしている。既存の理念に、「地域の人々とのふれあいを大切にし」の文言を入れ、地域密着型サービスの理念をつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、職員が勤務前に必ず目にするタイムカードの上に掲示して喚起している。また、全職員で理念の見直しに取り組んでいる。ホーム長は、新人職員にホームの理念やケアの指導を行っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区費を納め、夏祭りや道路清掃等に参加し、地域の人々との関係・交流を大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	コピーした自己評価表を全職員に配布し、各自が記入し、記入されたものを持ち寄り職員会議で検討している。また外部評価の結果は、月1回の職員会議、運営推進会議で報告し、課題について意見交換し改善に向け取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議は、管理者、職員以外に家族、民生委員、区長、市担当者に出席を要請している。出席しやすい時間帯(6:30PM)を定め、(参加者に配慮しながら、)自己評価・外部評価の課題について話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回、定期的に市担当者が来訪している。市担当者の訪問時や職員が出向き、制度に関する疑問点を確認したり、入居者の怪我の報告をしたり、地域の「いきいきサロン」参加について相談したり等、市との連携を積極的に行っている。		
た					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや健康状態は、定期的に電話や家族訪問時に報告している。また入居者の変化に応じ、その都度電話連絡をしている。「かえで新聞」を2ヶ月に1回発行している。預かり金の出納報告、利用料の支払いは、家族等が来訪し、直接精算の方法を意図的にしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、公的機関の苦情受付窓口の連絡先を、目に付きやすい玄関に掲示している。また、家族に敬老会や納涼祭等のホーム行事への参加を呼びかけ、家族の意見、苦情等を直接聞き、要望等を顕在化し運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が離職する場合は、退職する2週間前に、退職者自らが、入居者の気持ちに配慮した辞める理由を、入居者の前で話すようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回、法人企画の研修会が実施されている。「感染症について」「認知症のケア」等のテーマで行われ、交替で参加している。また、経験年数に応じた外部研修の受講を、積極的に勧めている。受講後は、報告書と職員会議で他職員へ口頭で伝達している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会の交換研修や研修会へ参加し、サービスの質の向上に努力している。また、地域内にある同業者との情報交換や交流を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の場合は、本人と家族にホームの見学や半日訪問を勧め、ホームの雰囲気馴染めるようにしている。また見学、半日訪問が無理な場合は、ホーム職員が本人・家族宅へ出向き、面談により相談しながら馴染みの関係が築けるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の得意とするものを、本人や家族から聞き把握している。囲碁や将棋を得意とする入居者に教えてもらいながら一緒にしたり、巻き寿司の海苔の巻き方や煮物の味付け等を教えてもらうなど相互関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや意向の把握は、担当制(2~3名の入居者)を取り入れ、入居者の日々の生活行動や動作から理解することなどコミュニケーションをとりながら時間をかけ把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回の職員会議で、その1時間程をケアカンファレンスとしている。各職員が入居者と共に過ごすことで知り得る情報や課題について話し合い、日々のケアに活かしているが、その情報や課題が介護計画を作成する上で活用されていない。	○	全体を通して項目のチェックにとどまらず、観察内容の記載を多くして、入居者の個別の状況を具体的に理解できるようなアセスメント用紙の選択と記録を期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しは、月1回の職員会議で実施されている。また入居者の変化が生じた場合は、その日の内に職員間で話し合い、ケアの見直しをしている。週2回来所する介護支援専門員に伝え、新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の希望や家族の都合に応じ、支援している。入居以前からのかかりつけの美容院へ送迎したり、公園の散歩を希望する入居者と散歩をしたり、体調がすぐれない時には車で行く等本人の要望にそう支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を取り入れ、受診先を決めている。かかりつけ医に家族の送迎で受診している入居者は、受診後には家族からの報告と医師からのメモ書きを受け取ることを取り決めている。他の入居者は、協力医療機関を利用している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの方針として、病状の重度化や終末期に生じる吸引や酸素吸入等の医療行為の提供はできない旨を入居時に家族へ伝え、家族も納得している。医療機関、訪問看護ステーションとの連携を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の自尊心に配慮した言葉遣いや態度であり、トイレ誘導時の言葉かけは、特に気をつけている。また個人情報に関する記録類は、事務室の戸棚に鍵をかけ保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の日課はおおよそ決められているが、入居者の身体状態や希望に応じている。居間でテレビ観賞をする人や夕方の散歩を希望する人等、入居者のペースを大切にしながら希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食べたい物を聞いたり、一緒に料理本を見ながら献立を選び、一週間分の献立表を作成している。また週2回の食材購入は、入居者に声をかけをし、希望する入居者と一緒に出しを行っている。おしぼり巻きや野菜の皮むき、食事前・後の挨拶等、入居者の好みや力量に応じ支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後1:30～5:00の時間帯は、入浴が毎日できるようにしている。入居者の希望で 毎日入浴したい人、決まった入居者同士で入浴したい人、一番風呂を好む人、週2回と決めている人等、一人ひとりの希望にそって入浴が楽しめるよう支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字をする人、童謡を歌ってみんなに聞かせる人、その日のメニューをボードに書く人、調理の味付けや野菜きり等入居者一人ひとりのもてる力を活かした支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や入居者の体調、希望によって、ホーム周辺か公園かを選び散歩をしている。また2ヶ月に1回程度、大型スーパーへ行き、食事や買物等を入居者の希望に合わせて実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を全面開放へ向け努力しているところである。日中の時間帯で鍵をかけない時、施錠するという方法で、入居者の行動を観察、家族からの意見・反応を求め、理解されて「鍵をかけないケア」の実現に向け努力している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回実施している。1回は、消防署の方から消火器の使い方や避難方法等の指導を受け、近隣の方々へ呼びかけをしている。もう1回は、職員主導で避難口・避難場所の確認や、持ち出し記録類・物品等の点検をしている。また非常用食料として缶詰類や水が2日分備蓄されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導を受け、一日1200kcalと水分量1500mlを目安に支援している。また、糖尿病や入居者の状態に応じきざみ食等を提供し食事摂取ができるよう支援している。一人ひとりの入居者の摂取量が記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には、手作りの日めくり暦やおやつ作りの写真、お花見やボーリング大会等の外出時の入居者の写真が貼られ、折り紙で作られた季節の花も飾られている。居間や台所等の共用空間は広く、天井が高く、空気の淀み等もなく、入居者が居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	8畳程の居室には、ベッドやエアコンの他に、ソファや小箆箆、椅子等、入居者の好みの家具類が持ち込まれ、安心して過ごせる配慮がされている。		